



日を追うごとに寒さが厳しくなり、布団から出るのに苦労している人もいかもしれませんね。引き続き感染症対策と体調管理に気をつけましょう。今年はコロナウィルス対策や豪雨災害で休校になりましたが、夏休みの短縮と学校行事の精選により、11月が終わった時点での授業時数は昨年度よりやや多いペースとなっています。学校行事での経験は減ってしまいましたが、教科の学習量は確保できています。

今月のテーマは「授業の受け方」です。みなさんにとっての「良い授業」とは、どんな授業ですか？

- できなかったことができるようになる、自分の成長が感じられる
- 学ぶと面白い・ためになる・意欲が湧く
- 自分の生活に変化を与える
- 授業を受けて考えが変わる（深まる、間違いに気づく、自信がつく）
- 友達と協力できる（自分一人じゃない）
- 達成感がある（ものづくりを完成させる、結果が出る）

このように、良い授業だなあと感じるポイントはいくつもあります。それでは、良い授業にするためには、どのように授業を受けると良いのでしょうか？まず1つは、「自」という文字が何回も出てくるように、授業で学ぶことを自分のものにする、自分事にするのが最も大切です。やらされている、やる気がない、ただその場にいるだけだと、学びが自分のものにならないので、良い授業になりません。みなさんは何のために学びますか？テストで高得点を取ることも、学んだことを自分の成長や、自分の考えに結びつけることを意識すると、良い授業が受けられそうですよ。

また、先生がどれだけ工夫しても、あなただけが意欲的に学ぼうとしていても、良い授業にするために欠かせないものが一つあります。それは、クラスの他の人と相互作用することです。先生の質問に対して、全員が全く同じ答えだと、違いがないので何の気づきもなく、新しい視点も得られず、学びが深まっていきません。例えば、豪雨ボランティアに行くときに一緒にボランティアする人が、人吉球磨の外から来られた方と一緒になのか、まさに被災した友達が一緒なのかで、気づきも配慮も格段に変わってくるのが想像できると思います。このように、誰と一緒に学ぶのが大切であり、自分とは違う考えや経験を持った人が、あなたに与えてくれる影響は、学びを深めてくれるものです。あなた自身の考えも、それが正解か不正解かなんてことよりも、他の人の学びに影響を与えられる価値があるものなのです。意見が違ふことを恐れず、良い授業にするため、クラスの学びを深めるために勇気を持って関わってください！

「学びの場」での「合言葉」

国語科 中嶋 勇太

皆さんが道を進んでいたら、前方に扉がありました。そこを通らないと先へは進めません。トントンとノックをすると、扉の向こうから「合言葉は？」と訊かれました。さて、皆さんはどうしますか？・・・残念。不正解です。「ひらけごま」ではありません。正解は・・・「わかりません。教えてください」と言えば良いのです。「なんだ、それだけか」はい、それだけです。

「学ぶ」というのはそういうことです。「どうふるまうよいかわからないときに、適切にふるまう」力をつけることが「学ぶ」ということなのです。

「わからないことがあれば、わかっていそうな人に訊く」それだけです。

でもそれが意外と難しいのです。人間はできること、知っていることを言葉にするのは得意です。（僕は自転車に乗れる・私はホットケーキが焼ける・I can speak English……）しかし、その逆「自分に足りないこと・できないこと・知らないこと・分からないこと」に気づき、それを言葉にするのは苦手なんです。

（これまでの勉強で「どこか分からないところある？」と先生にきかれて「どこがわからないかわからない」と感じたことがある人は多いはず。あの感覚です。）さらにその上で「誰に訊けばいいのか」というこ

とも考えなければなりません。（野球で140km/hのスピードボールを打つ方法を近所のおじさんにきいてもわからないだろうし、せっかくイチロー選手がいるのに難しい漢字の読み方だけをきいて帰ってもらうのももったいないですね。）

教室で授業を受けるというのは上で述べたようなことの練習の場だと私は考えています。わかることを増やしつつ、わからないことを確認していく作業。そしてそのわからないことを言葉にしてわかっていそうな適切な人間に訊いてみる。訊くなら先生よりも友達の方が質問しやすい。そんな感じです。それが教室という場で学校という場です。オンラインも悪くないですが、メッセージのやりとりだけではなんだか味気ないですね。友達と先生と顔を突き合せて、わかることとわからないことの狭間で葛藤し、共有する。それが「学びの場」なのではないでしょうか。球磨工業での様々な授業が皆さんにとってそんな場所になってくれればと思います。

少し難しい話をしてしまいました。わからない部分があれば遠慮なくどうぞ。ただし合言葉を忘れずに。

コーチは学びをやめたら終わり

建築科 西田竜雅

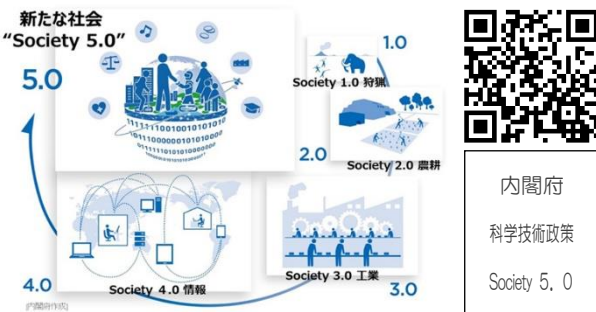
私が20代半ば、某大学ラグビーチームでストレングス&スキルコーチをさせていただいていた時に、当時の監督から言われ続け、現在も意識している言葉です。トレーニングについて独学で学び、県内外の講習会に参加するなどして自分なりに力をつけてきたと思っていましたが、コーチ就任の2年間ですべて覆されました。当初はこれまでの知識をフル活用し、学生に取り組みさせることで筋力値の向上が見られ、自分の仕事は順調だと思っていました。しかし、それが人生最大の過ちでした。筋力値こそ上昇していましたが、試合ではその筋力が活かされていないのが明白でした。鍛えられていたことは間違いありませんが、「プレートを挙上するため」だけの筋力だったのです。試合は終始、接点（コンタクト）で圧倒され大差で敗北。学生たちに悔しい思いをさせてしまいました。今だからこそわかりますが、トレーニングの効果は、その競技性に合わせて計画的に実施し、競技パフォーマンスを向上させる必要があるのです。

当時の私は、自分の力を過信し、選手一人一人の能力を考慮せず、ただトレーニングをこなしていただけ。そのシーズン終了後のスタッフミーティングで厳しいご指摘をいただきました。ようやくそこで「学ぶことの大切さ」というものに気づき、監督が言っていた「コーチが学びをやめたら終わり」という意味を理解することができました。当時の学生には本当に申し訳ないことをしたと今でも反省しています。

その日から読書を始めました。トレーニングの専門書や研究論文、ビジネス書など様々なものをとにかく

読み、大事なことはメモしました。この取り組みで、自分の知らないことを学ぶという姿勢を得ることができ、人の話をよく聞けるようになったと感じます。また、トレーニング指導では最後結果がでるまで、先の見えないことに挑戦しなければならず、「この指導方法でいいのか？」と不安でいっぱいでした。しかし、読書を続けていることで自分の「経験」、「知識」に「理論」が加わり、私の中に「自信」が生まれ堂々と指導することができるようになったと感じています。「読書」という学びから、様々な恩恵を受けていることは間違いありません。

「コーチは学びをやめたら終わり」ここではコーチですが、学生や先生、どの職業にも置き換えて言うことができます。今世界は、情報社会（Society 4.0）から新たな社会（Society 5.0）へと移行しています。新しい社会を形成する一員として、そしてその時代を生きる力を得るためにも「学び」を始めましょう！



1月の予定表

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
28	29	30	31	1 元日	2	3
4	5	6	7	8 始業式（服） まとめテスト	9	10
11 成人の日	12 (検)英語	13 基礎力診断テスト (1・2年)	14	15 進路トーク 合格体験記 情報技術検定 グラフィックデザイン検定	16	17
18 (検)国語	19	20	21	22	23	24
25 (検)数学	26 学年末考査(3年) 職員会議	27 学年末考査(3年)	28 学年末考査(3年) 漢字検定	29 午前：金④⑤大掃除 午後：生徒立入禁止	30 校内全館立入禁止	31 校内全館立入禁止

2月上旬の行事 1日(月)：前期(特色)選抜【生徒は家庭学習】 2日(火)：(検)英語
4日(木)：午前①②③授業、午後は家庭学習 5日(金)：①工業基礎学力テスト(2M/2A/2C)